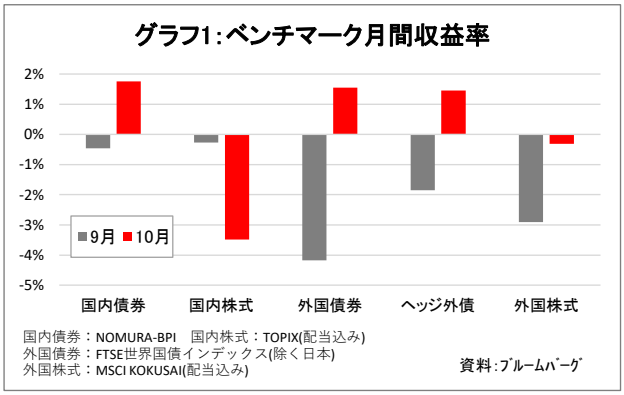
Global Market Outlook

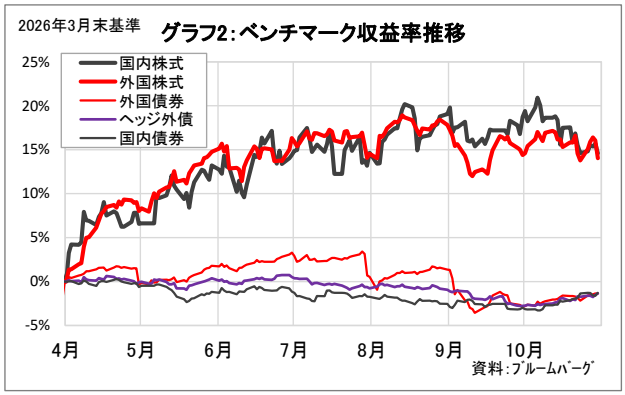
2026 年 11 月 2 日号

10 月の市場動向と 11 月の注目点

1. ベンチマーク収益率　～債券系が小幅上昇、国内株式がマイナス

10 月は内外債券、ヘッジ外債とも 1%台のプラスで終え、年度でのマイナス幅はいずれも 1%台前半まで縮小しました。国内債券は 6 月以来 4 ヵ月振りのプラスとなります。一方、国内株式は 3.5%のマイナス、外国株式は僅かながらマイナスとなりましたが、年度では内外株式とも 14%程度のプラスを維持しています。

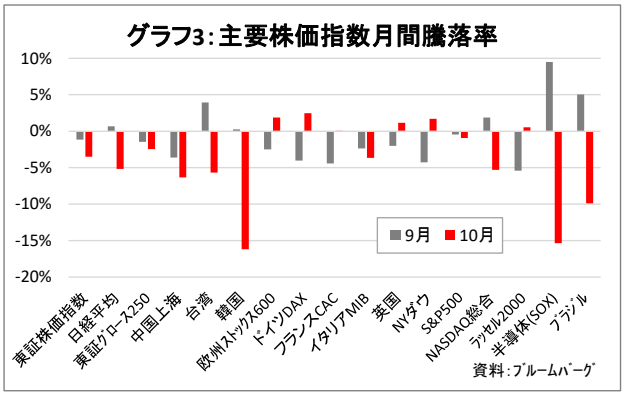


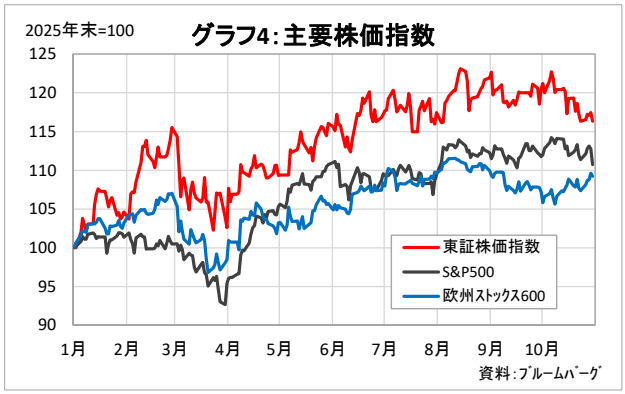


2. 各市場の動き

① 内外株式～AI・テクノロジー関連が下落

AI 投資に対する先行き懸念が再び高まり、NASDAQ 総合指数、米国半導体指数や韓国株は大幅に値を下げました。年初来、欧米比優位な展開が継続していた日本株は軟調に推移、一方で劣後してきた欧州株は反発、米国 S&P500 指数は概ね横ばいで 10 月を終えました。ブラジルでは大統領選挙決選投票がサプライズとなり株価は大幅に下落しました。



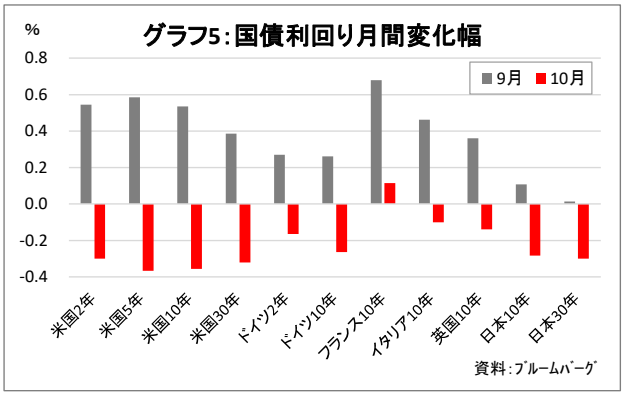


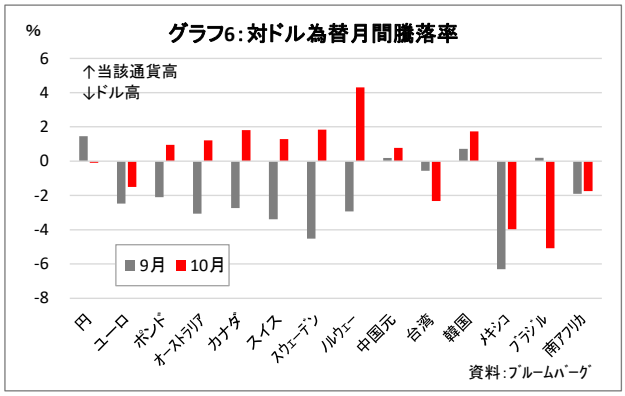
② 内外債券（長期金利）～グローバルで長期金利が低下

日米欧とも年初から長期金利は上昇を続けていましたが、10 月は低下に転じました。AI・テクノロジー関連を中心に株価が不安定な展開となるなか、安全資産に資金が向かったと思われます。また 10 年国債利回りが米国は 5%、日本が 3%に達したことで市場では一旦の達成感が生じたことも一因とみられます。欧州ではフランスの政治不安が継続し長期金利が高止まる一方で、ドイツの金利は低下しました。

③ 為替 ～ドル円は横ばい、ユーロは軟調

ドル円は 7～9 月期に介入で乱高下した後、10 月は様子見気分が高まり 156～158 円を中心とした狭いレンジで推移しました。ユーロが小幅続落する一方でスイスフランは堅調、原油価格の上昇からノルウェークローネは上昇しました。新興国ではメキシコペソが続落、ブラジルレアルは大統領選挙後に急落しました。





3. 10 月の主な出来事

① 日米欧とも政策金利を据え置き

月末にかけて米国、欧州、日本の金融政策決定会合が開催され、いずれも予想通り政策金利を据え置きました。米国 FOMC は 2 名が利上げを求め反対、欧州中銀は全会一致とされ、日本銀行は高田委員が利上げを主張し反対しました。先物市場では日米欧とも年内の 0.25%利上げを 7～8 割程度、来年 3 月まで 1.5 回程度の利上げを織り込んでいます。

日本銀行は基調的な物価上昇率は目標である 2%に概ね整合的と発表、2013 年 1 月に政府・日銀が共同声明で 2%の目標を掲げて以来 13 年越しの到達と歴史的な会合となりました。

欧州中銀はラガルド総裁が来年 2 月に退任すると発表しました。総裁は中央銀行から離れ政治的中立を意識せず発言したいためと説明しました。フランスでは来年 4～5 月に大統領選挙が予定されており右派候補勝利の可能性が高まっているようです。マクロン大統領の間に次期総裁を決定しておきたいということかもしれません。

② AI・テクノロジー関連への不安

AIに対する期待を背景に2025年春あたりからテクノロジー関連株が上昇を始め、今年の4月からは上昇に拍車がかかりました。右のグラフ7は米国半導体指数の動きですが、6月下旬を高値にその後は不安定な展開が続いています。10月には一部新興クラウド企業の借り入れに対する懸念の高まりを契機に、これまで市場を牽引してきた半導体関連銘柄等の多くが値を下げました。またグローバルでサイバー攻撃が活発化していることも市場心理を冷やしたと思われます。



③ その他

米国では中間選挙を目前に世論調査では民主党の勢いが増していると報じられました。危機感を強めたトランプ大統領は接戦州を中心に精力的に遊説を続けました。

フランスではデモが暴徒化し一部では社会不安が高まりました。イタリア等へ飛び火する動きも見られました。

ブラジル大統領選挙は4日に第1回投票が行われ、市場に「優しい」とされる野党候補がリードし株価が急上昇しました。しかし25日の決選投票でルラ大統領が逆転勝利を収めたことから株価は一転急落、通貨も大幅下落しました。

27日にイスラエルで議会選挙が投票され、ネタニヤフ与党が第1党を維持したものの過半数には届かず、先行き不透明感が高まりました。

4. 11月の注目点

① 米国中間選挙

金融市場にとっても一大イベントとなります。本件については10月29日付レポートをご参照いただければ幸いです。

② 国際会議

10～12日にフィリピンでASEAN首脳会議、18～19日は中国深圳でAPEC首脳会議が予定されています。APECでは米中首脳会談、あるいは可能性は高くはないと思いますがプーチン大統領も加えた米中ロ首脳会談が行われるという見方もあります。日中の関係悪化を背景に高市首相の動きにも注目したいと思います。

③ 金融政策決定会合

日米欧では英国のみ5日に予定されています。またラガルド総裁の後任人事も焦点になりそうです。

本レポートは筆者の個人的見方であり弊社の公式見解ではありません。

債券運用部シニアストラテジスト　菊池 宏

※　2026年9月以降のレポート

9月　1日号　8月の市場動向と9月の注目点
9月　9日号　シルバーウィークに要注意
10月　1日号　9月の市場動向と10月の注目点
10月　9日号　2026年度第2四半期の市場動向と今後の注目点
10月29日号　米国中間選挙と金融市場

三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社

登録番号　金融商品取引業者
関東財務局長（金商）　第404号

一般社団法人資産運用業協会会員

〒105-7320　東京都港区東新橋一丁目9番1号
電話　03‐4223‐3145

*本資料に含まれている経済見通しや市場環境予測はあくまでも作成時点における弊社ストラテジストの見解に基づくもので、今後予告なしに変更されることがあり、また弊社商品における運用方針と見解が異なることがあります。
*本資料は情報提供を唯一の目的としており、何らかの行動ないし判断をするものではありません。また、掲載されている予測は、本資料の分析結果のみをもとに行われたものであり、予測の妥当性や確実性が保証されるものでもありません。予測は常に不確実性を伴います。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自にご判断ください。
*なお、資料中の図表は、断りのない限りブルームバーグ収録データをもとに作成しております。